

NPO 自立支援センター ふるさとの会

2006.8.22
【第8号】



これはHTML形式のMAILです。オンラインで無い場合は画像が表示されない可能性があります。

HOME PAGE

SCHEDULE

EVENT table

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。
今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。
ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

INDEX

1. 山谷夏祭り報告
2. 隅田川花火大会 at ホテル三晃
3. 大阪研修報告
4. シンポジウム開催決定
5. 職員研修 日本NPOセンター山岡さんをお迎えして
6. 今月のボランティア募集

1. 山谷夏祭り報告

8月19日20日の土日、ふるさとの会では玉姫公園で山谷夏祭りを開催しました。NPO自立支援センターふるさとの会とボランティアサークルふるさとの会の夏祭りも、おかげさまで今年で第30回をむかえました。

恒例になりました高野山別院の僧侶を招いての無縁仏供養では、お盆にふるさとに帰れなかった仲間を弔うため、焼香の長い列が続きました。夏祭りにご参加いただいたのは、ドヤで暮らしておられる方々、地域の方々、路上で生活されている方で、舞台を楽しむ、屋台を楽しむ、中には炊き出しのみ目的、などなど様々な方がいらっしゃいましたが、活気もあり成功であったと思います。

舞台や屋台の飾りつけなどは、移行支援事業に参加する就労チームが行ったほか、今回は一般ボランティアの方々が、1日あたり30人ほど参加してくださいました。ありがとうございます。皆さん色々な経験をされ、満足頂けた方が多かったと思います。それと同時に課題も多く見えたため、話し合いなどで改善していけたらと思います。また18日のアンケートについても本番同様、成功には欠かせない要素であったと思います。つながりを大切に前進していきたいと考えています！ これからもボランティアサークルふるさとの会をよろしくお願いいたします。

(ボランティアサークルふるさとの会担当 尾竹唱木)



就労グループによる舞台の飾りつけ



炊き出しの800食のカレー。ボランティア総出で食材を刻む！



ぼやぼやバンドの演奏。恒例の山谷ブルースは2日目に

3. 隅田川花火大会 at ホテル三晃

それは昨年10月の「ふるさとホテル三晃」オープン時からの念願だった。「屋上からは隅田川の花火大会がよく見える」、そう言われていたのだ。約2万発の花火に百万単位の観客が詰めかけるという江戸っ子自慢の大きな催しの“特等席”が三晃にあるなんて。ならば見ようじゃないか、やろうじゃないかみんなで。三晃スタッフがふるさとのスタッフが未だ見ぬでっかい花火をそれぞれ夢想して、そうして準備は始まった。

本当だった！

5階ベランダほぼ正面の夜空に一瞬開く光の花とその彩り。黙って見つめる利用者さんらの顔が花火の光で浮かびあがる。少なくないひとたちがじっと身動きせずに静かに眺めるその姿が、逆になんだかうれしい。お祭り騒ぎもあろうかとスタッフが用意した「カラオケセット」なんていらなかった！ そう、「花火に光をみる人と闇をみる人がいて並んでいる」というような作品を詠ったのは歌人の俵万智さんだったか。ひとりひとりの心に何が浮かんだかは知る由もないが、確信を持って言えるのは、“その場”を提供できたことに喜びを感じているということだ。

あるいは。車いすの観覧者が来れば席を譲りあう利用者さんたち。当たり前のことだろうと人は言うかもしれない。けれどもなぜかそんな光景がうれしい。

三晃職員としてのそんな喜びは多くの人々の協力なくして成り立たなかった。

やっぱり花火大会なんだから——焼きそばやかき氷は欲しいねえ、いやいやスイカもあった方がいい、飲み物はどうしよう！？ そうそう団扇を作っちゃえ。なんだかうれしくなってくる準備でも、初めての試みだったからじつはてんやわんやの右往左往。「亀戸におしくて安いスイカがある」という情報をもとに現地へ出向いてスイカを購入。そのスイカは往診して下さっているクリニック職員が配達してくれた！ 秋山三晃館長は自らオリジナルデザインの団扇を100個作り上げて参加者に配布。駄菓子はある配膳スタッフが休日返上で買い出した。他の生活支援スタッフもその日の仕事を切り上げて準備した。

ふるさとの会他事業部からの助っ人も汗をかいだ。駄菓子があつという間に無くなって悲鳴をあげた(?)某スタッフ、「学生時代から焼いてましたから」と事も無げに言う硬派某スタッフが××食の焼きそばを次々とさばいていく(美味しかった!)。「焼酎のウーロン茶割り!」「コークハイ!」という冗談交じりの利用者さんの注文に「100%ウーロン茶」や「100%のコーラ」を運んで「ハイ、お待たせ!」。アルコールメニューはなくても楽しめたそんなやりとり。その横では来賓として招いた方がかき氷作りを買って出てくれる。「年に一度の利用者さんの楽しみという舞台」を会にかかわる多くの人々が支えてくれたのだった。

後かたづけも見事だった。あつと言う間に終わった。利用者さんたちまで参加してテーブル、イスを5階会場から1階まで次々と運び出す。会場の掃除もしてくれる。その段取りの見事さと言ったら! とくに利用者数人による手際の良さ、仕事の早さには頭が下がった。「ぼくにはかなわないや」つついつづやっていた。

この夜、他宿泊所からも次々と利用者さんが詰めかけた。その数××。会場を後にする時の「楽しかった。ありがとうございました」の言葉が胸にしみた。

「三晃の夏の夜の夢」を一瞬のものとしてに続けられたなら。そんな思いでいっぱいだ。汗をかいしてくれた多くの人への感謝の気持ちとともに。

(ふるさとホテル三晃 田辺 登)

三晃のエントランスはいつも、利用者さんの手によって彩られています



この夜を精一杯楽しんでくれた利用者さんたち。 オリジナル団扇を手にとりこり

3. 大阪研修報告

先日、7月31日～8月1日の日程で大阪研修に出かけてきました。研修テーマは、大阪における『就労困難者』に対する支援事業を学ぶこと。さらには、大阪府と東京都の就労支援システムを比較検討した上で、ふるさとの会の就労支援事業に反映させることです(大阪市立大学の福原教授が研修先のコーディネートをして下さいました)。研修を通じて印象に残ったことをいくつかご報告いたします。

■ 地域就労支援センター

大阪では各市町村に「地域就労支援センター」が設置されています。ハローワークを通じての求職活動ではなかなか就職に結びつかない地域の「就労困難者」(障害者・ニート・母子家庭etc。その中にホームレスも含まれる)に対して、①住み慣れた「地域」において、②生活面でのサポートを加えながら(地域の社会資源と連携)、③必要に応じて就労のスキルアップの場を提供する(次に説明する、C-STEP)、という多様かつきめ細かい支援の流れが、公的な裏付けをもったシステムとして存在しています。ふるさとの会では台東区と墨田区にて、地域生活支援センターを運営していますが、サポートの中心は生活面においており、形態はあくまで自主事業です。「就労」を含めた地域での包括的支援という視点を持つこと、今以上に公的な広がり意識して事業を進めることが出来ないものか検討する必要を感じました。

■ C-STEP(おおさか人材雇用開発人権センター)

就労意欲の喚起や、就職活動に有利となる技能取得を目指し、職場体験や技能講習プログラム(マナー講習など)を実施しています。また、職域開発を目指し「地域仕事づくりフェア」(地域と企業の出会いの場)という催しを開いていることも特徴的です。それらのプログラムを通じて、何と1000社を超える企業との付き合いがあるとのこと。東京都では特に後者の地域での仕事づくり(さらには就労困難者とのマッチング)に対する支援が不十分であるように感じます。ふるさとの会でも、「ふるさとワークステーション」という就労支援の事業所を持っています。厚労省委託の技能講習、移行支援事業の就労サポートにおける職場体験講習など、ソフト的にはC-STEPと似たものもありますが、弱点は、あくまで存在が自主事業であること。公的な仕組みとして認められることが、より大きな支援への足がかりになります。

■ (株)美交工業+NPO釜ヶ崎のJV公園清掃(住吉公園)

清掃を専門とする民間会社(株)美交工業と、ホームレス支援を専門とするNPO釜ヶ崎支援機構がJVを組み、府営公園の指定管理者として公園管理を行っています。両者が「WIN-WIN」の関係を築いているモデルケースであるように受け取りました。指定管理者の選定において「総合評価制度」(落札額だけでなく、例えば障害者を何人雇用しているか等、社会的な貢献度も含め総合的に評価する)が大きな役割を果たしたそうですが、東京都内では指定管理者の選定および総合評価制度がどのように動いているか学習が必要です。ふるさとの会でも就労支援事業において宿泊所や更生施設等の清掃を担っていますが、より広く公共施設の清掃を受託する工夫が不可欠だと痛感しました。

(地域支援センター「すみだ」 古木大介)

4. シンポジウム開催決定

包括的地域生活支援を考えるためのシンポジウム『ホームレスの自立支援・就労支援とは』

日時: 10月29日(日)午後1時半～4時半(開場1時)

場所: 財団法人東京しごと財団 講堂 資料代: 1000円

お問い合わせ: 自立支援センターふるさとの会(担当: 石神) TEL:03-3876-8150

NPO法人ふるさとの会主催のシンポジウム。今年はホームレスの自立について、各地でさまざまな角度からアプローチをされている方々をお招きして、『就労』という視点から討論いただきます。多くの方々のご参加をお待ちしております。

働く人の問題がクローズアップされています。「働きたいけど働けない人」、「失業者」にもカウントされない人、ニート、引きこもり、パート労働者、母子父子家庭、生活保護基準以下の収入で生活する「ワーキングプア」。

ホームレスの問題も「就労」の問題であると言えます。それは単に仕事があれば解決できる問題ではありません。「ホームレス」をするということは社会との関係を絶つことであり、その生活が長期化すればするほど社会生活に復帰することがより困難になります。いざ仕事に就いても様々な困難に直面します。生活習慣、人間関係、債務、健康、そして偏見。

こうした状況から脱却するためにはどのような社会的支援が必要なのでしょう。ホームレスの就労支援活動をする中で我々は一つの答えにたどりつきました。それは「働く人」には「ケア」が必要であるということです。では、「働く人のためのケア」とは何でしょうか？

ここ数年間、東京では行政、民間企業、NPO、学者など様々なセクターが連携しながらホームレスの自立支援事業を推進してきました。ホームレス自立支援法が施行されてから5年間が経過した現在、我々はこれまでの活動を見直すとともに、より広い視野から我々の活動の意義を捉えなおす段階にきていると考えています。

基調講演 福原 宏幸 氏(大阪市立大学大学院 経済学研究科 教授)

シンポジウム『ホームレスの自立支援・就労支援とは』

パネリスト 池田 幹雄 氏(東京都福祉保健局生活福祉部計画課自立支援係長)

富田 一幸 氏(株式会社ナイス 代表取締役)

布川 日佐史 氏(静岡大学人文学部教授)

福原 宏幸 氏(大阪市立大学大学院 経済学研究科 教授)

水田 恵(特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会 代表)

コーディネーター 山岡 義典 氏(法政大学現代福祉学部教授、日本NPOセンター副代表)

5. 職員研修 日本NPOセンター山岡さんをお迎えて

ふるさとの会本部の研修室にて、日本NPOセンター副代表理事の山岡義典氏を迎えて『NPOにおける人と組織のマネジメント』及び、『財源構成から見たNPOのマネジメント』についての職員研修を行いました。

日本型のNPOは縁(えにし)、恩(めぐみ)、情(なさけ)という世間型で結ばれていて、欧米型は信(まこと)、義(ただし)、愛(いとおしみ)という市民型で結ばれている人とマネジメントの説明では、世間型の人間関係を活かしつつ、世界に通用する市民型組織の構築がこれからは求められるということで、歴史の浅いNPO全体に変革期が近づいていると感じました。

ボランティア主体の活動から、有休スタッフの割合によって企業的なNPOへと組織形態が移っていく説明については、特に興味深く話を聞かせていただきました。

ふるさとの会は労働条件の改善を目的に就業規則を作りました。これは9時～6時の勤務時間を遵守しつつ、制限のない対人援助を効率よく行ってほしいという思いがあります。また勤務とは関係のないところで自主的に行うボランティア性に緊張を持ってもらう意味もあります。経営は就業規則による安定ですが、起業はボランティアの中でこそ新しいニーズ発見ができるからです。山岡先生との意見交換の中で企業化するNPO職員のボランティア性については、対人援助の時間だけに価値を置くだけではなく、ニーズ発見・起業という視点がなければ何も生まれないと考えます。

職員も積極的に意見を出すざっくばらんな雰囲気の中、山岡先生を交えた研修は終わりました。
(就労支援事業部 小林 英夫)

6. 今月のボランティア募集

ふるさとの会地域支援事業部では、毎月一回、地域支援センターやリビング、宿泊所の利用者の方々のお出かけプログラムを実施しています。

回を追うごとに人気が高まり、毎回60～80名の方々にご参加いただくまでになり、スタッフ一同、心からやりがいを感じています。一方、大勢でのお出かけを参加者全員の方に楽しんでいただくには、利用者さん同士の支えあいもさることながら、たくさんの方々の協力も、また、必要になります。8月は、夏祭りがありましたのでお休みしましたが、9月にはみんな揃っての外出プログラムを予定しております。9月29日(金)9:30集合、夕方までの予定で都内の水族館に行くことにしています。

是非、お出かけ付き添い&見守りボランティアとして、一緒に行事を支えていただけませんか。興味がある、月一回くらいなら時間を作れるという方は、どうぞお気軽に下記までお問い合わせ下さい。お電話お待ちしております！

お問い合わせはこちらまで → 地域支援センター「すみだ」03-5819-3254(フルキ)

発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会
〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6
TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950